

資料 1 ● 参考リスト

第 1 章 痛みの治療を受けるために知っておきたいこと

1. がんの痛みとは

- 1) 世界保健機関(編), 武田文和(訳): がんの痛みからの解放—WHO 方式がん疼痛治療法, 第 2 版, 金原出版, 1996
- 2) 日本緩和医療学会緩和医療ガイドライン作成委員会(編): がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2010 年版, 金原出版, 2010, P14-23

2. がんの痛みの多くは治療できる

- 1) 日本緩和医療学会緩和医療ガイドライン作成委員会(編): がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2010 年版, 金原出版, 2010
- 2) 世界保健機関(編), 武田文和(訳): がんの痛みからの解放—WHO 方式がん疼痛治療法, 第 2 版, 金原出版, 1996
- 3) 恒藤 暁(著): 最新緩和医療学, 最新医学社, 1999

3. がんの痛みのメカニズム

- 1) 日本緩和医療学会緩和医療ガイドライン作成委員会(編): がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2010 年版, 金原出版, 2010, P14-23

4. 痛み治療や痛みどめに対するよくある誤解・迷信

- 1) American Cancer Society: American Cancer Society's Guide to Pain Control, 2004, P7-21, P43-54
- 2) 日本緩和医療学会緩和医療ガイドライン作成委員会(編): がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2010 年版, 金原出版, 2010, P76-79, P171-177
- 3) Temel JS, Greer JA, Muzikansky A, et al: Early palliative care for patients with metastatic non-small-cell lung cancer. N Engl J Med 363(8): 733-742, 2010
- 4) 武田文和(著): がんの痛みの鎮痛薬治療マニュアル—すべてのがん患者の痛みからの解放のために, 第 2 版, 金原出版, 2005, P86-97

第 2 章 あなたの痛みを伝えてください

1. 痛みは本人にしかわからない

- 1) American Cancer Society: American Cancer Society's Guide to Pain Control, 2004
- 2) 日本医師会(監): がん緩和ケアガイドブック 2008 年版, 産業科学, 2008
- 3) Twycross R ほか(著), 武田文和(監訳): トワイクロス先生のがん患者の症状マネジメント, 第 2 版, 医学書院, 2010
- 4) Yamaguchi M, Kumano H, Yamauchi Y, et al: The development of a Japanese version

of the short-form McGill Pain Questionnaire. JSPC 14 : 9-14, 2007

- 5) 圓尾知之, 中江 文, 前田 倫ほか: 痛みの評価尺度・日本語版 Short-Form McGill Pain Questionnaire 2(SF-MPQ-2)の作成とその信頼性と妥当性の検討. PAIN RESERCH 28 : 43-53, 2013

2. 痛みを説明するために知っておいてほしいこと

- 1) 日本緩和医療学会緩和医療ガイドライン作成委員会(編): がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2010年版, 金原出版, 2010, P27

3. 痛み治療に役立つメモや日記

- 1) 日本緩和医療学会緩和医療ガイドライン作成委員会(編): がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2010年版, 金原出版, 2010

4. 痛みの伝え方のコツ

- 1) 米国内科学会: HEALTH TiPS ; Opioid Pain Medicines.
[http://www.acponline.org/patients_families/products/health_tips/opi_en.pdf]
- 2) 世界保健機関(編), 武田文和(訳): がんの痛みからの解放とパリアティブ・ケア, 金原出版, 1996

第3章 がんの痛みに対する治療のしくみ

1. がんの痛みに対する世界共通の治療のしくみ「WHO方式がん疼痛治療法」

- 1) 世界保健機関(編), 武田文和(訳): がんの痛みからの解放—WHO方式がん疼痛治療法, 第2版, 金原出版, 1996
- 2) 日本緩和医療学会緩和医療ガイドライン作成委員会(編): がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2010年版, 金原出版, 2010

2. 痛みどめの種類や量の決め方

- 1) 日本緩和医療学会緩和医療ガイドライン作成委員会(編): がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2010年版, 金原出版, 2010

3. とん服薬の使い方

- 1) 日本緩和医療学会緩和医療ガイドライン作成委員会(編): がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2010年版, 金原出版, 2010
- 2) 世界保健機関(編), 武田文和(訳): がんの痛みからの解放—WHO方式がん疼痛治療法, 第2版, 金原出版, 1996

4. がんの痛み治療の目標

- 1) 世界保健機関(編), 武田文和(訳): がんの痛みからの解放—WHO方式がん疼痛治療法,

第2版, 金原出版, 1996

- 2) 日本緩和医療学会緩和医療ガイドライン作成委員会(編): がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2010年版, 金原出版, 2010, P31

第4章 がんの痛みの治療に使われる痛みどめについて

1. 解熱鎮痛薬——弱い痛みを使う薬

- 1) 日本緩和医療学会緩和医療ガイドライン作成委員会(編): がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2010年版, 金原出版, 2010
- 2) 厚生労働省医薬食品局監視指導・麻薬対策課: 医療用麻薬適正使用ガイダンス, 2012, P13-15
[http://www.mhlw.go.jp/bunya/iyakuhin/yakubuturanyou/other/iryo_tekisei_guide.html]

2. コデイン、トラマドール——弱い痛みから中くらいの痛みを使う薬

- 1) American Cancer Society: American Cancer Society's Guide to Pain Control, 2004, P82, P190-191
- 2) Twycross R ほか(編), 武田文和ほか(監訳): トワイクロス先生のがん緩和ケア処方薬, 医学書院, 2013, P318-322, P326-329
- 3) 日本緩和医療学会緩和医療ガイドライン作成委員会(編): がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2010年版, 金原出版, 2010, P39, P44

3. モルヒネ、オキシドロン、フェンタニル、メサドン——中くらいの痛みから強い痛みを使う薬

- 1) 厚生労働省医薬食品局監視指導・麻薬対策課: 医療用麻薬適正使用ガイダンス, 2012, P73-79
[http://www.mhlw.go.jp/bunya/iyakuhin/yakubuturanyou/other/iryo_tekisei_guide.html]

4. 痛みどめのさまざまな製剤(のみ薬、貼付剤、口腔粘膜吸収製剤、坐薬、注射薬)の特徴と使い方

- 1) 日本緩和医療学会緩和医療ガイドライン作成委員会(編): がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2010年版, 金原出版, 2010

5. 鎮痛補助薬について

- 1) 日本緩和医療学会緩和医療ガイドライン作成委員会(編): がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2010年版, 金原出版, 2010
- 2) Twycross R, 他(著), 武田文和(訳): トワイクロス先生のがん患者の症状マネジメント, 第2版, 医学書院, 2010

6. 痛みどめの副作用——その予防と対処

- 1) PEACE プロジェクト：第4回北里大学病院緩和ケア研修会(参加者配布資料)，平成24年5月12-13日
- 2) 日本緩和医療学会緩和医療ガイドライン作成委員会(編)：がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2010年版，金原出版，2010
- 3) 厚生労働科学研究「痛みに関する教育と情報提供システムの構築に関する研究」：痛みの教育コンテンツ(ver1.01)

第5章 痛み治療がうまくいっていないと感じたとき

1. 自分の痛みがうまく伝えられないとき

- 1) City of Hope : Pain and Palliative Care Resource Center
[<http://prc.coh.org/Pt-familyEd.asp>]

2. 痛みどめの副作用に不安があるとき

- 1) American Cancer Society : American Cancer Society's Guide to Pain Control, 2004
- 2) 大中俊宏ほか(訳)：MD アンダーソン サイコソーシャル・オンコロジー，メディカルサイエンスインターナショナル，2013

3. 痛みどめの使用法に不安があるとき

- 1) 国立がん研究センターがん対策情報センター：がん情報サービス
[<http://ganjoho.jp>]
- 2) 日本緩和医療学会緩和医療ガイドライン作成委員会(編)：がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2010年版，金原出版，2010
- 3) がんの痛みネット
[<http://www.itaminai.net>]

5. 痛みどめへの抵抗感があるとき

- 1) 日本緩和医療学会緩和医療ガイドライン作成委員会(編)：がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2010年版，金原出版，2010，P180-182

6. 痛みや痛みどめについての相談窓口

- 1) 国立がん研究センターがん対策情報センター：がん情報サービス
[<http://ganjoho.jp>]
- 2) 日本緩和医療学会：緩和ケア・患者さん家族に役立つリンク集
[http://www.jspm.ne.jp/pub_link/]
- 3) 日本ホスピス緩和ケア協会：ホスピス緩和ケア Q & A

[http://www.hpcj.org/uses/q_and_a.html]

- 4) 公益法人日本対がん協会：がん相談・サポート

[http://www.jcancer.jp/consultation_and_support]

第6章 薬以外による痛みの緩和方法

1. 薬以外によって痛みをやわらげるさまざまな方法

- 1) Saunders CM, Baines M : Living with Dying : The Management of Terminal Disease, 2nd ed, Oxford University Press, 1989
- 2) Twycross R ほか(著), 武田文和(監訳) : トワイクロス先生のがん患者の症状マネジメント, 医学書院, 2003, P17-18, P25-28
- 3) Patient information : Chronic pain(The basics)
[<http://www.uptodate.com>]

2. 放射線治療とは

- 1) 日本放射線腫瘍学会(編) : 放射線治療計画ガイドライン 2012年版, 金原出版, 2012, P280-283

3. 神経ブロック療法とは

- 1) Swarm RA, Karanikolas M, Cousins MJ : Injections, neural blockade, and implant therapies for pain control. Oxford Textbook of Palliative Medicine(Hanks G, Cherny NI, Christakis NA, et al eds), 4th ed, New York, Oxford University Press, 2010, P734-754
- 2) Chan R, De Leon-Casasola O : Neural blockade for cancer pain. Cancer Pain(Bruera E, Portenoy R eds), 2nd ed, New York, Cambridge University Press, 2010, P315-328
- 3) Mannes A, Kim PS, Lonser RR : Interventional approaches to pain. Principles and practice of Palliative Care and Supportive Oncology, 4th ed, Philadelphia, Lippincott Williams & Wilkins, 2013, P55-65
- 4) Chambers WA : Nerve blocks in palliative care. Br J Anaesth 101 : 95-100, 2008

4. 自分でできる痛みへの対処法

- 1) 静岡県立静岡がんセンター : 「学びの広場」シリーズ⑦「がんと上手につきあう方法」
- 2) Sheinfeld Gorin S, Krebs P, Badr H, et al : Meta-analysis of psychosocial interventions to reduce pain in patients with cancer. J Clin Oncol 30(5) : 539-547, 2012

資料 2 ● 作成者リストと利益相反

利益相反開示事項

学会の利益相反に関する指針、細則、報告事項、Q & A については学会ホームページ (<http://www.jspm.ne.jp/rieki>) をご確認ください。

役員・委員等の利益相反開示事項(概要)

- 1 報告対象企業等の職員、顧問職か
- 2 給与・報酬等 100 万円以上
- 3 講演料・原稿料・報酬等 50 万円以上
- 4 受託研究費(治験)等 200 万円以上
- 5 研究助成金(寄付金)等 200 万円以上
- 6 株式等持ち分 10%以上
- 7 専門的証言・助言等 100 万円以上
- 8 株式・出資金等持ち分 1,000 万円以上

開示期間

2012 年 4 月 1 日～2013 年 3 月 31 日

緩和医療ガイドライン委員会			利益相反
委員長	太田恵一朗	聖路加国際病院消化器センター/消化器・一般外科	該当なし
担当委員	的場 元弘	青森県立中央病院緩和医療科	該当なし

患者・家族のためのがん疼痛治療ガイドライン作成 WPG			利益相反
WPG 員長	的場 元弘	青森県立中央病院緩和医療科	該当なし
WPG 副員長	佐藤 哲観	弘前大学医学部附属病院麻酔科/緩和ケア診療室	該当なし
	高橋美賀子	聖路加国際病院オンコロジーセンター	該当なし
	立松三千子	愛知県がんセンター中央病院薬剤部	該当なし
WPG 員	石川 憲行	国立病院機構相模原病院薬剤科	該当なし
	市川 欧子	東京臨海病院消化器内科	該当なし
	伊藤 香織	東京都立多摩総合医療センター薬剤科	該当なし

	伊東 俊雅	東京女子医科大学病院薬剤部/がんセンター緩和ケア室	該当なし
	大中 俊宏	国立病院機構東京医療センター緩和ケア内科	該当なし
	沖崎 歩	国立がん研究センター東病院臨床開発センター精神腫瘍学開発分野	該当なし
	奥山慎一郎	山形大学医学部附属病院疼痛緩和医療部/緩和ケアチーム	該当なし
	金井 良晃	東京大学医学部附属病院緩和ケア診療部	該当なし
	川島 正裕	市立岸和田市民病院緩和ケア内科	該当なし
	金 英植	三菱神戸病院外科	該当なし
	小杉 寿文	佐賀県医療センター好生館緩和ケア科	該当なし
	坂下 美彦	千葉県がんセンター緩和医療科	該当なし
	關本 翌子	国立がん研究センター東病院看護部	該当なし
	田口 賀子	大阪府立病院機構大阪府立成人病センター緩和ケアセンター	該当なし
	永倉 久泰	KKR 札幌医療センター放射線科	該当なし
	中村 直樹	聖路加国際病院放射線腫瘍科	該当なし
	藤田 和子	京都第一赤十字病院緩和ケア内科/麻酔科	該当なし
	松岡 順治	岡山大学大学院保健学研究科、岡山大学病院緩和ケア科	該当なし
	松原 貴子	市立伊勢総合病院麻酔科	該当なし
	和田千穂子	国立がん研究センター中央病院看護部	該当なし
評価委員	天野 慎介	一般社団法人グループ・ネクサス・ジャパン	該当なし
	井関 雅子	順天堂大学医学部麻酔科学・ペインクリニック講座	講演料、原稿料、報酬等： 久光製薬株式会社、ファイザー株式会社
	加賀谷 肇	明治薬科大学臨床薬剤学教室	該当なし
	勝俣 範之	日本医科大学武蔵小杉病院腫瘍内科	該当なし
	細矢 美紀	国立がん研究センター がん対策情報センターがん医療支援研究部教育研修室	該当なし

(五十音順)